

九州まちづくり提案

○出っ張りのある垣根であることを所有者に知らせるサービスのあるまち
よく垣根に使われるカイズカイブキやベニカナメ、アオキなどの木々は成長すると枝や葉が歩道や道路側に相当出っ張る。そのため歩き歩行や自転車通行にかなりの支障が出る。加えて高齢社会であり杖つく人や車椅子の人たちにも支障が出る。所有者が高齢所帯だと気づかないことが多く、気づいても対応が遅れる。ほんとうに事故があつてからでは襲い。加えて見た目にも悪い。街区や町の印象も悪くなるというものである。
そこで例えば植物の伸び盛りの梅雨の時期や秋の紅葉が終わる頃の年2回、歩道や道路使用のスムーズな利用という観点から、出っ張りを点検し垣根の所有者に知らせるサービスを実施し小奇麗で整頓が行き届いた安全安心なまちづくりを図ってはどうか。
知らせたときに所要の剪定や伐採を望む人にはシルバー人材センターなどの仲介の労をとるサービスが加えられれば言うことない。